

【新医師臨床研修「地域保健・医療」の実践的な研修方策に関する研究】

(平成16～18年度 地域保健総合推進事業)

＜平成17年度の受入れの概要＞

(主任事業者) 秋田県 秋田中央保健所 伊藤善信所長

目的) 平成17年度から開始された「地域保健・医療」研修の実施状況を調査し、実態を把握するとともに課題を整理する。

方法)

① 保健所アンケート (平成17年11月)

「地域保健・医療」研修として研修医を受け入れた保健所を対象にメールでのアンケート調査を実施。

② 現地調査、研修医インタビュー、研修医アンケート

結果)

平成17年度研修医受入れ状況は、受入れ保健所390か所(67.4%)

保健所での受入れ研修医総数3,459人、1保健所あたり8.6人であった。

①平成17年11月時点でメールアンケートを行い、292保健所(74.9%)から回答

(1保健所当たりの受け入れ人数) 8.9人

(最多55人、1～5人が約5割、6～10人が約3割。) 21人以上受け入れる保健所13か所(研修の主たる担当者)

所長 86 (29.5%)、他の医師 85 (29.1%)、保健師 48 (16.4%)、事務職 36 (12.3%) (研修期間)

4週間 145 (49.7%)、2週間 73 (25.0%)、1週間 50 (17.1%)

(プログラム) 研修医の希望に沿う39.9%、研修医+保健所52.8%、保健所の希望5.6%

研修内容：家庭訪問50.0%、健康教育48.3%、フィルム読影45.2%、研究・発表34.2%

立入検査31.9%、資料の集計・分析31.5%、HIV検査37.3%、予防接種20.2%、等(公衆衛生医師に興味をもった研修医) 研修修了者1805人中136人(7.5%)

②研修医アンケート等

(研修医の感想：姿勢や視点の変化)

①慢性期ケアやホスピスケアなど患者ニーズの多様性、②患者が地域で生活していること、③臨床で経験する感染症の公衆衛生的対応、④退院後の生活とそのケアを支えるサービスのかかわり、⑤予防医学への関心、⑥医療経済への視点の広がり

(研修医の感想：できるようになったこと)

①臨床場面での患者背景への洞察力や包容力、②ネットワーク拡大による問題解決力、③地域連携システムの利用力、④感染症などへの対応力、⑤介護保険などの社会サービスの利用力、など幅広くスキルアップができた。